

止至千饗會秋倖非事之意者也若弥盡賊徒勞賜不晚今舉城燒亡無處會聚但拔有功加其賞賜足以勸勵我士何必大饗更致騷動乎且其殺獲生禽頗知破賊弥以勉勵速成大功列書頻奏驛使屢勞施平寇之策莫以進引歲月云々

同三十五元慶三年正月十一日奈下渡島夷首百三人率種類三千人詣秋田城云々

小寺伝心二代実録二十七卷貞觀十七年の奈下を引て渡嶋といふ飛騨郷をいふ

みや未考云々按之に日本書紀一渡嶋蝦夷一ふ解とありを見ればけつ飛嶋の事よりあつて上より今ハ郡縣も多し（）
 乃れた百六十余軒にまゝに延享三年の人別帳を見れば男女老幼に八百八十九人ありふ解のまをまゝ（）と解よりあつた又弊略并略ハ度略し別とあり飛嶋より中里余をあらわして小祚の略あれは僅の略よて柵を據て戦ふ（）と夜の略よりあつす小祚のまに海と山嶋二ツ三ツあり誌多々むす